

# 保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

8/10

## 論述ブースト No.8

### 研究者・医師の二つの顔を論じる —— 医学研究の意義と限界を答案に組み込む

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。「医師は患者のために尽くすべき」という臨床医師像だけを語る答案と、研究者・医師の二つの役割を医学の発展という文脈で論証した答案の評価の差を、審査側として体感してきました。

#### 1. この講座が有効な入試問題のタイプ

##### ① 「医師になる意義」を問う小論文

東京大学・京都大学・慶應義塾大学医学部の推薦入試では、「医師として研究にどう向き合うか」「臨床医と研究医の違いをどう考えるか」という小論文が出題される。研究者・医師の二つの顔を論じられる受験生は、採点者（大学教員）が求める「大学医学部で育てたい人物像」を示せる。

##### ② 医学研究の倫理・限界を論じる問題

「臨床研究で患者の同意なく実験することは許されるか」という問いは、医学部推薦入試で出題される。研究倫理という視点で論じられる受験生は、感想論述との差が明確になる。

##### ③ 面接での「研究か臨床か」の問い

「将来、研究医と臨床医のどちらを目指すか、またその理由は」という問いは、医学部面接で定番である。二つの役割の関係性を論じられる受験生は試験官（大学教員）に印象を残す。

#### 2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	「医師と研究者の関係」の小論文	二つの役割の論証が採点者の求める人物像を示す
京都大学 医学部	医学研究の意義・倫理の論述	研究倫理の視点が感想論述との差を生む
横浜市立大学・名古屋市立大学 医学部	「将来の医師像」を問う小論文	研究と臨床の両軸で語れる受験生として際立つ
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「研究医か臨床医か」型の口頭試問	二つの役割の関係性を論じ採点者（大学教員）に印象を残す

#### 3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「医師＝患者を治す人」という一面的な医師像で小論文・面接を対処している受験生は、採点者が求める「大学医学部の研究教育への理解」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）研究者・医師の二つの役割を論証できる、（2）医学研究の倫理・意義を答案に組み込める、（3）面接で「研究と臨床の関係」を論理的に語れる、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、「患者のため」だけの答案と「研究者・医師の二つの顔を論じた答案」の評価の差を採点者として知っている。